



公立学校共済組合
四国中央病院

しこく

ホームページアドレス <http://www.shikoku-ctr-hsp.jp/>

第**59**号

2018年12月

住所：愛媛県四国中央市川之江町2233番地 TEL (0896) 58-3515 FAX (0896) 58-3464



四国中央市健康まつり 平成30年10月6日

もくじ

巻頭言 災害に強い病院を目指して	2・3
特集 チーム医療「産後ケア事業の取り組みについて」 ..	4・5
南館だより	6
新任医師・職員紹介・知事表彰について	7
健康まつりに参加しました	8
編集後記	8

病院理念
【真心・信頼・連携・思いやり】

広報誌

しこく

第59号 発行平成30年12月1日
編集 四国中央病院広報・年報委員会

災害に強い病院を目指して

公立学校共済組合四国中央病院副院長

さん がわ てる あき
寒 川 晃 顕



「天災は忘れた頃にやってくる」は、寺田寅彦（物理学者）の言葉です。ところが近年は、次から次へと災害が発生しています。

特に今年は多くの災害がありました。地震に関しては、6/18 の大阪府北部地震（M6.1 最大震度 6 弱）で、死者 5 人・負傷者 454 人、小学校のブロック塀倒壊により小学生が下敷きになり死亡しました。

9/6 の北海道胆振東部地震（M6.7 最大震度 7）では、死者 41 人・負傷者 691 人、北海道全域での停電、厚真町を中心にした広い範囲の土砂崩れ、そして札幌市内の液状化現象などがありました。

台風に関しては、12 号（負傷者 23 人）は、7/29 に三重県伊勢市に上陸して、その後は本州から九州にかけて東から西へ進み「逆走台風」と呼ばれ、西日本を中心に大きな被害が出ました。

21 号（死者 13 人 負傷者 913 人）は、9/4 に徳島県南部と神戸市に上陸し、その際には、高潮により関西国際空港は、滑走路の浸水や空港連絡橋の中破などで一時孤立しました。また、大阪府を中心に広範囲の停電がありました。

今年の夏は、記録的な高温（猛暑）を観測し、7/23 には埼玉県熊谷市で日最高気温 41.1 度（歴代 1 位）を記録しました。全国で 7 月に熱中症で緊急搬送された患者さんは、統計開始以降の月別で最多の 5 万 4,220 人（死者 133 人）でした。

6 月 28 日から 7 月 8 日にかけて、全国的に広い範囲で記録された集中豪雨を、気象庁は「平成 30 年 7 月豪雨」と命名しました。この豪雨により、西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し死者数が 200 人を超える大きな災害になりました。愛媛県も南予を中心に甚大な被害があったのは記憶に新しいところです。

このように今年には多くの災害がありました。地震、台風、火災、津波などの大規模災害発生時に、被災地内の医療機関を支援して、傷病者を受け入れるなど、災害時の医療救護活動において地域の拠点になる病院が『災害拠点病院』です。四国中央病院は、平成22年に愛媛県から災害拠点病院の指定を受けました。そして、災害派遣医療チーム（DMAT）も保有し、熊本地震の際には当院からもDMATを派遣しました。災害の増加に伴って災害拠点病院の重要性は年々高まっています。

近々、四国中央病院は統合新病院の建設を予定していますが、災害発生時にも今まで以上に頼りになる病院を目指したいと考えています。



産後ケア事業の取り組みについて

北2階病棟



近年は核家族化がすすみ、妊娠・出産・育児において周囲からの支援を受けることが難しい家族が増えています。また、産後は慣れない育児による疲れや睡眠不足、ホルモンバランスの変化などが原因で気分が落ち込みやすいといわれています。子育て中の家族が孤立してしまうのを防ぐためには、生活している地域で支援することが重要です。そこで、厚生労働省は平成26年度より、家族などから十分な育児の援助が受けられない赤ちゃんとお母さんを対象に、心身のケアや育児のサポート等を行う目的で産後ケア事業を開始しました。四国中央市からの委託を受けて当院でも平成29年度より産後ケアに取り組んでいます。

産後ケアを利用できる方は、四国中央市に住民登録がある生後4ヵ月未満の赤ちゃんとお母さんと、家族等から家事・育児の援助を受けられない方や、心身に不調のある方などです。申し込みは四国中央市保健センターで受け付けています。保健師との面談を通して利用が決定し、産後ケア事業として公費負担を受けることができます。利用期間は原則7日間までとなっています。

ケアの内容は赤ちゃんとお母さんの健康状態の確認、授乳の指導、育児に関する相談などです。医療機関で具体的なアドバイスを受けることで、子育ての悩みを解消し、安心して育児ができることにつながります。これまでに当院で産後ケアを利用された方の理由は、「育児に不安がある」、「家族からサポートを受けられない」、「疲労が蓄積し、体調がすぐれない」などでした。ケアを受けたあとは、「母乳育児のことを相談できてよかった」、「身体を休めることができた」、「スタッフに見守られているように感じて安心できた」などの感想をいただいています。疲れ切った表情でいらしたお母さんが、利用後には笑顔で赤ちゃんに接している様子を見ると、産後ケアの重要性を改めて感じます。育児に悩ん

でいる方がいらっしゃったら、“一人で頑張り過ぎずに「産後ケア」を利用してみては”と、声をかけていただければと思います。

当院では、助産師としての高い実践能力を認められた『アドバンス助産師』を中心に、安全で質の高いケアが提供できるように努めています。助産師外来で妊婦さん一人ひとりと面談し、妊娠中のちょっとした悩みも相談しやすい体制をとっています。また、母親学級やパママ学級、骨盤ケア教室など出産に向けての指導にも力を入れています。入院中のきめ細やかなケアはもちろん、退院後も産後ケアの他に電話訪問、母乳外来などを行っており、妊娠中から産後まで切れ目のない支援を提供しています。四国中央市で出産を取り扱う唯一の総合病院として、保健センターなど地域と連携しながら、子育て中のご家族を支えていけるように今後も取り組んでいきたいと思っています。

『アドバンス助産師』とは

日本助産評価機構によって審査され、自律して助産ケアを提供できると認証された助産師のことをいいます。認証を受けるためには、分娩介助数 100 例以上、新生児の健康診査 100 例以上、妊娠期・産褥期の健康診査各 200 例以上などの実践例数や研修の受講など、いくつかの条件が設定されています。全国では 1 万人以上、愛媛県では 80 名が認証を受けており、当院では 7 名のアドバンス助産師が活躍しています。





南館だより

12月号

主任薬剤師（南館担当薬剤師） **矢野 勝之**



今年4月から南館2階病棟で病棟薬剤師として勤務しています矢野勝之です。

昨年まで整形外科病棟を担当していて、その頃から入院や手術の前後に心理的・身体的負担から眠れなくなったり、ストレスを抱えたりする患者さんから相談を受けることがありました。

精神科のお薬といえばこういった印象をお持ちでしょうか？「薬を飲むことに抵抗がある」「副作用がきつい」「依存性が高くてやめられなくなる」といったマイナスなイメージを持つことが多いのではないのでしょうか。

特に副作用に関して相談を受けることが多く、不安に思う患者さんが多いと思います。

精神科のお薬は血圧や糖尿病のお薬のように効果や改善度合いを示す生理学的検査による客観的な指標がありません。そのため、慎重に患者さんの状態を1つ1つ観察し、お話を聞くことによって、適切なお薬の選択と投与量の決定が必要です。

南館病棟では医師をはじめ病棟スタッフが患者さんの食事、睡眠、お通じなどの生活の基本となる部分や気分が落ち込む、落ち着かないといった精神的な面を患者さん本人と話し合い、お薬の効果、副作用がないかを確認しながら治療を行っています。

また、治療するにあたって継続してお薬を飲むということは非常に重要であるとともに、飲み忘れてしまったり、良くなったと思い飲むのをやめてしまったりしてしまう方が多く、それが原因で調子を崩してしまうケースが多いです。

そういったお薬・治療に対する正しい情報を患者さんに説明し、こういったお薬でなぜ必要なのか、どのような副作用が出やすいかを患者さんに理解していただき、無理のない治療を続けていけるサポートを薬剤師として出来ればと思います。

今後、病院薬剤師に求められることは単に処方箋に基づき調剤をする機械的な仕事ではなく、患者さんと向き合い、話をする事で得られた情報を薬剤師の立場から評価し、患者さんを含めたチーム医療へ情報を反映出来るようなコミュニケーション能力ではないかなと考えています。

これからも南館病棟のスタッフとして患者さんの治療に貢献できるような薬剤師になれるよう患者さんに寄り添う気持ちを忘れずに日々の業務にあたっていこうと思います。



ようこそ！ 四国中央病院へ

(平成30年6月～平成30年11月採用)



むらかみ まさひろ
村上 雅博

職 種／第二産婦人科部長
趣 味／庭いじり
自己PR／大学卒業後からこれまで徳島、香川、和歌山、香川、徳島と転勤し、本年7月に愛媛にやってきました。四国中央市の分娩施設は当院だけなので地域のニーズに応えられるように頑張りたいと思います。



たむら うしお
田村 潮

職 種／内科医員
趣 味／旅行
自己PR／10月から赴任しました田村と申します。少しでも地域の皆様のお役に立てるよう努力していきます。よろしくお祈りいたします。



にい とおる
新居 徹

職 種／内科医員
趣 味／読書
自己PR／川崎医大出身の新居徹と申します。この度、四国中央病院に赴任することになりました。精一杯頑張りますのでよろしくお祈りいたします。



なかむら たけなお
中村 剛直

職 種／医療情報専門職
趣 味／ウォーキング、読書
自己PR／福岡からやって参りました中村です。穏やかな海とすさまじくきれいな夕焼けに日々感動しています。皆様に医療情報システムを円滑に利用していただけるように尽力致します。よろしくお祈りいたします。



ふるかわ やすひろ
古川 泰弘

職 種／社会福祉士
趣 味／居酒屋放浪(笑)
自己PR／これまで、県内外の大学病院にてMSWとしての研鑽を積み、この度四国中央病院でお世話になることになりました古川です。経験を活かして、少しでも貢献出来たらと考えております。何卒、宜しくお願い申し上げます。



平成30年度 愛媛県救急医療功労者知事表彰について 9月12日(水)

当院は地域の救急医療に貢献する団体として、愛媛県知事表彰を受けました。

この表彰は、9月9日の「救急の日」や「救急医療週間」に合わせて愛媛県が毎年表彰しているものです。表彰式では、鎌田病院長から「この表彰を機に新たな決意で救急に取り組む」との謝辞がありました。



10
6
±

健康まつりに参加しました。

四国中央市保健センター主催の健康まつりに当院助産師がブースを出展しました。当日は、オムツキャンディの製作、アロママッサージ、お産の寸劇などでブースは大賑わいでした。

多くの方々にご来場頂きましてありがとうございました。



編集後記

広報誌しこく第59号ができあがりました。今回は巻頭言で『災害派遣医療チーム（DMAT）』が紹介され、特集では『産後ケア』、そして南館だよりでは『病棟薬剤師』についての記事が載っています。病院での診療はさまざまな医療専門職がチームを組んで行われており、各部署のエキスパートが力を結集します。ひとりひとりの患者様にベストな診療が行えるように日々研鑽しています。

濱田 信一

広報誌しこく第59号を最後までお読み頂きましてありがとうございました。

次回の広報誌は6月発行予定ですので、今回の広報誌が平成最後の広報誌になりました。まだ新しい元号は発表されておりませんが、どんな元号になるのでしょうか… 発表は来年2月ごろになるようですので楽しみです。

5月には当院は病院開設60年を迎えます。来年（平成31年、〇〇元年）は何かと節目となる年になりそうです。

最後に、広報誌しこく第59号の発行にご協力いただきました全ての方々から感謝いたします。

高橋 幹